

「福音の恵みをともに受けるために」
1コリント9：23

鄭ヒムチャン

- ・前奏
- ・開会賛美 「威光・尊厳・栄誉」、「大波のように」
- ・開会祈り
- ・主の祈り
- ・証

1. 導 入

7月、8月は「国際平和月間」ということで、今日は今年の1月にインドネシアに行ってきた時のめぐみをお分かちさせていただきたいと思います。インドネシアにいったつもりで、楽しみながら聞いてください。

2. インドネシア訪問の紹介 < () の番号はスライドのページ >

(1) 2020年1月14日から21日の8日間インドネシアに訪問してきました。ちょうどコロナウィルスの感染が拡大する前でした。今振り返ってみるとギリギリセーフでした。

(2) 今回の訪問は3人で行ってきました。清野先生、鞆持ちとして私、そして同盟教団の国外宣教委員長吉持日輪生先生です。吉持先生は国外宣教委員長として同盟教団で世界宣教のために携わっており、今回の訪問をともにされました。

(3) まずインドネシアについて簡単に紹介を致します。これがインドネシアの場所で、日本から飛行機で約7時間半の距離です。

(4) 人口は2億6千万人で日本の2倍以上、世界で4番目に多くの人口を有する国です。赤く記されたところがインドネシアの国土となりますが、見ていただいで分かるように非常に多くの島々から国が形成されています。約1万3500もの島がある国です。さらにはこの島々に300以上の民族が生活している多民族国家でもあります。数あるの島の中で今回行ってきましたのは、緑の枠で囲んでいるジャワ島にな

インドネシア訪問紹介 2020年1月14-21日



ります。

(5) インドネシアの宗教についてもご紹介致します。これは知って驚いたことですが、なんとインドネシアでは宗教を持つことが義務化されています。日本では無宗教といっても特に驚くことはないと思います。むしろ宗教の話をするとうるさい人だと思われるようなこともあります。ですがインドネシアでは宗教を持つことが義務化されていますので、日本とは反対でむしろ宗教を持たないことが人々から敬遠される理由となるのです。この違いは驚きでした。

インドネシアでは国が5つの宗教を国教と定めています。イスラム教、キリスト教（プロテスタントとカトリック）、ヒンドゥー教、仏教の5つの宗教です。グラフを見ていただくとわかりますが、インドネシアのほとんどの人、87%がイスラム教徒であり、人口としては世界最大のイスラム国家です。

そしてキリストはプロテスタントが7%、カトリックが3%、合わせて1割のクリスチャンがいます。10人に1人がクリスチャンです。

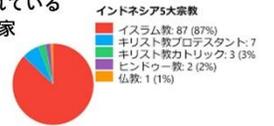
(6) これがジャワ島の地図です。今回は2つの地域を訪ねました。初めに首都であるジャカルタに行き、そして清野先生が宣教師として働いていた中部ジャワのソロという街に行きました。

(7) 首都ジャカルタを見て驚きました。東京、いやそれ以上に大きな高層ビルが立ち並んでいる大都市でした。

(8) このジャカルタで、現地のインドネシア人教会である「スンベルカシ、愛の泉教会」に訪れました。

インドネシアの宗教事情

- 宗教を持つことが義務化されている（反共政策）
- 5つの宗教が国教とされている
- 世界最大のイスラム国家



ジャカルタ

高層ビルが並ぶ
大都市にびっくり



Sumber Kasih

愛の泉教会

(9) 実はこの愛の泉教会の一室を借りて、毎週ジャカルタ日本語キリスト教会の礼拝がささげられています。現地に住んでいる日本人たちが集まって礼拝を捧げている教会です。ご存知の方も多いと思いますが、現在海外でクリスチャンとなって日本に帰国する人たちが年間約1600人いると言われていています。日本で毎年救われるクリスチャンと同等、もしくはそれ以上の数です。今の時代は海外で日本宣教をする時代だということもできるでしょう。このジャカルタ日本語キリスト教会もその宣教の尊い働きを担っている教会です。



ジャカルタ
日本語
キリスト教会

海外でイエス様と出会い
日本に帰国する人
なんと年間約1600人

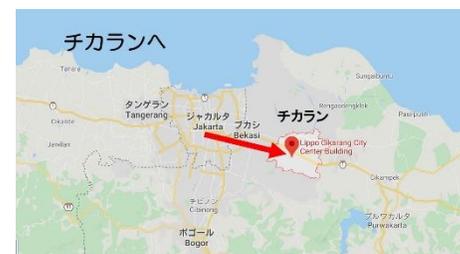
(10) 私たち一行がジャカルタでお世話になったブディマンさんご夫妻です。ジャカルタ日本語教会を初期から支えて来られました。ご主人は中国系のインドネシア人で、奥様の和子さんは日本の方です。



和子さん(奥様)

ブディマンさん

(11) ジャカルタから西に移動し、チカランという街に行きました。



(12) チカランという街について少し紹介したいと思うのですが、この街、実はリッポーという財閥が建てた街です。非常に多くの業種を手掛ける巨大な企業ですが、このリッポーという企業はクリスチャン企業です。リッポーがこの地域を工業団地として建て、この地域に日本や韓国企業の工場が建てられました。車で走りながら見ていると、ホンダやヤマハなど多くの企業の工場をみることができます。日本からこの地域に駐在員として多くの人があるのですが、以前は単身赴任という形態が多かったそうです。ですが、このリッポーが家族みんながこの地に来ることができるよう、2015年に日本人の教師が日本語で教育する「ヒカリジャパニーズスクール」という幼稚園を建てました。

チカラン (Cikarang)



- LippoGroup (リッポー) という財閥が建てた街
- リッポーはクリスチャン企業
- この地域を工業団地として建てたが、多くの日本韓国企業が進出
- 家族で駐在できるように幼稚園を建設
- 2015年キリスト教主義の「ヒカリジャパニーズスクール」が開園



先程申し上げたようにリッポーはクリスチャン企業ですので、このヒカリジャパニーズスクールもキリスト教主義の幼稚園として設立されました。

(13) これがヒカリジャパニーズスクールの玄関のところで、左の女性が校長の松本先生です。



(14) 校舎内の様子です。とても広くてきれいな校舎でした



(15) 食堂、中庭、図書館の写真です。



(16) 多くの日本人駐在員の子どもたちが通っていました。園児たちはほとんど未信者ですが、先生たちはみなクリスチャンの方々です。インドネシア後で創造主である神様に子どもたちが出会っています。土浦めぐみ教会のマナ愛児園のように小さい子どもたちに、最も大切である神様のことばを教えている素晴らしい幼稚園でした。



(17) 毎月覚えている暗唱聖句の張り紙です



(18) 左の写真が伺った日の時間割です。この日は午前中だけのプログラムだったのですが、11時からの礼拝に参加させてもらい、子どもたちにメッセージを語りました。ここまでがヒカリジャパニーズスクールの様子です。



(19) 次に同じチカランの街にある、今度は韓国人の宣教師たちによって立てられた学校を訪問しました。もともとジャカルタ韓国人教会という一つの教会が持っていた土地に、宣教師たちがともに志をたて、教育を通して宣教することを目的に立てられた学校です。



(20) この後ろの絵が最終的に建てる計画だそうで、今既に大学、小中学校、幼稚園、語学院を運営しながら、宣教をしていました。



(21) チカランを離れ、今度はジャカルタから東、カラワチという街に行きました。

このカラワチという街もまたリッポーが建てた街でありまして、



(22) このリッポーが建てたプリタハラパン大学という大きな大学に行きました。この大学もまたキリスト教主義の大学です。



(23) 学校のキャンパスを歩くと至るところに聖書のみことばがみられました。



(24) この大学で興味深かったのはここです。レストランのように見えますが、実は学校の教室です。観光学科があり、ここではサーブやおもてなしの実践を学んでいました。神学や聖書を学ぶだけではなく、キリスト者として一流のホテルマンを目指す領域の広さに感銘を受けました。

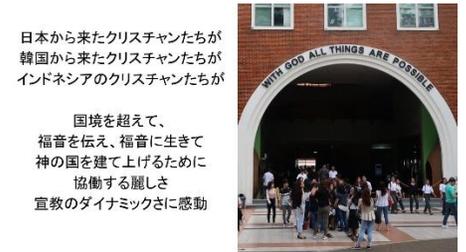
クリスチャンが社会の全領域で働くことを実際に推進に、世界に送り出していることにチャレンジを受けました。



(25) これは隣の厨房の様子です。パティシエを養成しています。



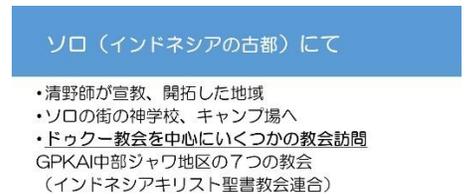
(26) ジャカルタは国際的な宣教が行われている場所でした。日本人のクリスチャンがヒカリジャパニーズスクールで聖書の神様を子どもたちに伝え、韓国からきたクリスチャンたちはK-eduplexで教育宣教をし、インドネシアのクリスチャンたちがプリラハラパン大学でキリスト者として社会の全領域に送り出す。日本人から来たクリスチャンたちが、韓国から来たクリスチャンたちが、インドネシアのクリスチャンたちが、国境を超えて、福音を伝えるために協働している姿に感動とチャレンジをうけました。



(27) ジャカルタをあとにし、今度は田園地帯が広がる中部ジャワの「ソロ」へ向かいました。



(28) ソロは清野先生ご夫妻が宣教師として活動し、開拓伝道された街です。ソロでは街の神学校、そしてキャンプ場を見学に行ったり、そして清野先生が開拓されたドゥッカー教会とその同じグループの教会を訪問して回りました。



(29) これはGPKAI中部ジャワ地区の教職者家族が集ってクリスマス礼拝をした時の写真です。



(30) この方は清野先生とともにこの中部ジャワ地区の宣教をともになさったアントニー先生です。



(31) 訪問した教会すべてを紹介することはできないのですが、いくつか行ってきた教会を紹介致します。これはサンビレジョ教会です。この教会堂の土地購入の際は同盟教団の常磐線教区の教会で献金を募り、サポートしました。そして青い服をきた写真の右側の方がこのサンビレジョ教会の牧師をしているアリエス先生です。アリエス先生は清野先生の教え子で、同盟教団の教会から支援を受けて神学校で学び、牧師となりました。実は今毎月同盟の月刊誌である「世の光」にGPKAIの先生方の証が掲載されていることをご存知でしょうか。アリエス先生はこんなことを書かれています。

「世の光」(6月号)

「私は1979年に同盟教団から派遣された清野宣教師に会い、ガレージで開かれていた弟子訓練講座に参加しました。そこで、私は私の個人的な救い主として主イエスを信じ、新しく生まれました。…

…1981年、私はジョクジャカルタのインドネシア神学院に入学しました。その時、松戸福音教会が私を支援してくれました。神学院のルールに従い在学中に貧しい人たちの住宅街で、清野先生と一緒に開拓伝道に励み、20名の方が信仰を持ちました。」

日本からのサポートを通して、牧師となり、今このサンビレジョ教会で牧会、宣教の奉仕に励んでおられます。

教会訪問

サンビレジョ教会

アリエス師夫妻(右)



(32) バンゴレジョ教会です。この教会はムルッド先生夫妻が牧会なさっています。

ムルッド先生も同様に世の光に証が掲載されているのですが、1980年に清野先生とアントニー先生の導きによってクリスチャンになり、2005年には同盟教団から奨学金を得て、神学学位を取得し、今ソロの神学校で教鞭をとっておられます。



(33) モジョ教会、セオルジョ教会です

モジョ教会

セオルジョ教会



(34) そしてドゥッカー教会です。ソロで回ったどの教会と比べてもひととき大きな教会堂でした。

ドゥッカー教会



(35) これが礼拝堂です。非常に大きな礼拝堂ですが、



(36) 日曜日の礼拝になるとぎっしりとうまります。現在150人ほどの教会員がいる大きな教会です。



(37) 教会の皆さんと撮った写真です。ご高齢の方々から小さな子どもたちまで写っていますが、ご高齢の方々が清野先生がおられた時代に救われた方々でそのメンバーから子供へ、そしてさらに孫たちへと信仰が継承され、三代に渡るキリストの家族となっています。



(38) 青年たちの集会にも参加してきました。めぐみ教会の青年たちも毎週土曜日に集まって学んでいますが、ドゥックー教会の青年たちも土曜日の夜に集まって集会を持っていましたので、一緒に参加させてもらいました。



(39) ここで新体験メッセージをしました。最初はどんな集会をしているのか見学するつもりでいったのですが、いくとすぐにメッセージをお願いしますと頼まれたのです。「喜んでします。」と応えたのは良いのですが、私は全くインドネシア語を話せません。どうやってメッセージしようかと話していると、青年の中に少し韓国語を話せる人がいたのです。そして更には英語を少し話せる青年がいることもわかりました。そこで全く新しい試みでメッセージをすることにしました。私が韓国語でメッセージすると、青年がインドネシア語で通訳し伝えてくれます。ですが、私が韓国語で話しているとその青年の顔がだんだん曇って来ます。ですが、隣にいる英語がわかる青年に伝えると「うんうん」といって通訳してくれます。二人の青年と協力し、3つの言葉を使い、そして話したテーマはなんと恋愛について。忘れら



れない新体験メッセージでした。

(40) 集会後青年たちと一緒に記念写真を撮りました。初めての日本から来た私をととても親切に迎えてくれました。初めて行った教会でこんなふうに接してもらえるとまた行きたい気持ちになるのだなと教えてくれた素晴らしい青年たちでした。



(41) そして私がドゥッカー教会でもっとも感動した。家庭集会です。うへの右側の赤いシャツの方が、ドゥッカー教会の牧師であるスドモ先生です。スドモ先生は清野先生を通して救われ、また土浦めぐみ教会の支援を受けて、神学校を卒業し、1984年から現在に至るまでこのドゥッカー教会の牧者として仕えておられます。



スドモ先生の左隣の黄色の服をめした方は、ギヨノ長老でドゥッカー教会を初期より支えてこられた方です。ドゥッカー教会の家庭集会は各家庭が代わり番こ家を解放して行うのですが、この日はギヨノ長老のお宅で行われました。ウィークデーの夜にお年寄りから小さな子どもたちまでみんなが集まり集会を持つのですが、まるで大家族が正月にあつまって親睦をわかちあうかのような本当に楽しい時間でした。個人的に今まで訪れたどの教会にもまさり、教会が神の家族であると実感した教会です。少しですが、この雰囲気がわかって頂けるように家庭集会の様子を動画でとってきましたので、御覧ください。

(42) **動画** 本当ののびのびとそして自然体で神様とともに賛美し、礼拝している様子。そして誰一人緊張することなく、皆が打ち解けて信頼しあっている集会。いるだけで自然と心がほんわして、笑顔になる空間でした。人を呼び寄せる吸引力のある教会でした。



(43、44) そして今回の訪問で、本当に勉強になったことです。家庭集会で若い男性たちが給仕をしていました。日本でも男性が厨房に入ったり、給仕をしたりすることは一般的になってきていますが、それでも家庭集会で男性が給仕をするということはなかなか見られないと思います。ですが、ドゥッカー教会の家庭集会は若い男性たちが、ひざまずいて、一人ひとりに丁寧に食事を給仕していました。この姿が



本当にきれいでした。このように生きたいと思わされました。彼らは私の先生です。



3. 福音の恵みをともにうけるために

今回の訪問から返ってきた私は、喜びと希望に溢れて生き返ったような心地でした。なぜならそれは宣教の豊かな実りを味わったからでした。神様がインドネシアに実らせてくださった福音宣教の恵みの果実を大いに味わったからです。

この豊かな実りの種が蒔かれたのは今から遡ること40年前、神様は清野先生夫妻を宣教師としてインドネシア、ソロの地に遣わされました。そして先生ご夫妻はこの地で福音の種をまきました。神様はこの働きを大いに祝福して下さり、蒔かれた種は芽を出しました。多くの受洗者が起こされたのです。更に主はこの芽の生長のために私たち土浦めぐみ教会を用いてくださいました。

主は私たちに志をたてさせ、インドネシアの宣教の働きへと押し出してくださいました。わたしたち土浦めぐみ教会は経済的なサポートを行いました。このサポートを通してスドモ先生は神学校で学び、ドゥッカー教会の牧者となり、それから36年間神様はこの教会の歩みを豊かに祝福してくださったのです。

マルコ4:30-32

30 また言われた。「神の国は、どのようなものと言えよいでしょう。何にたとえたらよいでしょう。

31 それはからし種のようなものです。地に蒔かれるときには、地に蒔かれる種の中で、一番小さいのですが、

32 それが蒔かれると、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が巣を作れるほどになります。」

蒔かれたときは小さな種だったかもしれませんが。ですが40年が経ち、今のこのまかれた種は大きな木となりました。小さなからしだねが成長して大きな木となり、枝を張り、鳥が巣をつくっては憩うように、ソロの街に芽生えた小さな群れは、今や150人も人が憩うキリストの木陰となりました。世が決して与えることのできない喜びと平安が満ちている神の家族がソロの街に形成され、そしてこの群れは今もなお生長しています。

その人生の最後に至るまで福音宣教に力を注いだ使徒パウロはこう言いました。

1コリント9:23

「私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをともに受ける者となるためなのです。」

私たち土浦めぐみ教会がかつてささげた福音のための働きは、今ソコの地で豊かに確かに実を結んでいました。今回の訪問で私はこの実りを見、そしてまた皆さんにこの福音の恵みを分かち合えることを心から感謝しています。神様は私たちが福音のために献げた業を豊かに用いてくださったのです。そして、この福音の恵みをドゥッカー教会とともに受ける者とさせていただきます。

私たちが主の福音のためにささげたものを、神様はその偉大な働きにおいて用いてくださる。そして私たちをドゥッカーの教会とともに福音の恵みを受ける者としてくださっている。宣教は祝福なのですね。感謝致します。もっとこの祝福をしたい求めて歩みたいですね。

祈ります。

- ・ 祈り
- ・ 応答賛美 讃美歌234A 「昔主イエスの」
- ・ 報告
- ・ 頌栄「2020テーマソング」
- ・ 祝祷 **私はすべてのことを、福音のためにしています。
それは、私も福音の恵みをともに受ける者となるためなのです。**
- ・ 後奏
- ・ (終わった後の) 紹介と報告